

オーロラのお針子

新鋭短歌

藤本玲未

Reimi Fujimoto



書肆侃侃房

オーロラのお針子

藤本玲未

■著者略歴

藤本玲未 (ふじもと・れいみ)

1989 年東京生まれ。「かばん」所属。

Twitter : @reimifu

「新鋭短歌シリーズ」 ホームページ <http://www.shintanka.com/shin-ei/>

新鋭短歌シリーズ 13

オーロラのお針子

二〇一四年九月九日 第一刷発行

著者 藤本 玲未

発行者 田島 安江

発行所 書肆侃侃房(しよしかんかんぼう)

〒八一〇・〇〇四一

福岡市中央区大名二・八・十八・五〇一

(システムクリエート内)

TEL : 〇九二・七三五・二八〇二

FAX : 〇九二・七三五・二七九二

<http://www.kankanbou.com> info@kankanbou.com

監修 東 直子

装画 牧野 千穂

装丁 大野 リサ

DTP 園田 直樹(システムクリエート・書肆侃侃房)

印刷・製本 瞬報社写真印刷株式会社

©Reimi Fujimoto 2014 Printed in Japan

ISBN978-4-86385-157-3 C0092

落丁・乱丁本は送料小社負担にてお取り替え致します。

本書の一部または全部の複写(コピー)・複製・転載および磁気などの記録媒体への入力などは、著作権法上での例外を除き、禁じます。

オーロラのお針子

*

目次

I

駅のひだまり

6

S u i c a で月へ

16

天国のシュレッダー

26

II

オーロラのお針子

36

8月の魚の骨

46

天上のかき氷

56

35

5

Ⅲ

塩味のたましい

66

頁をめくる夏

76

ドライアイス

86

Ⅳ

風のゼリー

98

ひとり向日葵

110

冬の図書館

122

解説 新しい時代の抒情 東直子

132

あとがき

138

65

97

オーロラのお針子

*

目次

I

駅のひだまり

6

S u i c a で月へ

16

天国のシュレツダー

26

II

オーロラのお針子

36

8月の魚の骨

46

天上のかき氷

56

Ⅲ

塩味のたましい

66

頁をめくる夏

76

ドライアイス

86

Ⅳ

風のゼリー

98

ひとり向日葵

110

冬の図書館

122

解説 新しい時代の抒情 東直子

132

あとがき

138

65

97

駅のひだまり

学校をサボってたべるナポリタン紙ナプキンが水でふやける

唐揚げの下のレストランを食べてみる駅のひだまり冷えた膝裏

終電の銀色のやつが過ぎていくあたしの夜をおいてっちややだ

うまくいくわけがないと思ってた崩御崩御とからだがか叫ぶ

痛みあり光合成の痕である3月7日の交換日記

理科室に閉じ込められて菜の花になったふたりの声がききたい

代々公のベンチの下でひろった手のひらサイズの0と1の子

ここは海ここは空だと塗りつぶす青という字は青くないけど

学校の自転車置き場で待ちぶせたいつもの話はさせてあげない

仲直りするよりはやく焼けるからホットケーキミックスひとつ

半額の焼きそばパンを分けあって川辺にいない僕らになりたい

あたしすぐ死にたくなるから網棚の上でお願い寝かせておいて

ギロチンにかければいいわその代わりおさげを切ったら許さないから

ほんとうは、ではじまることは愚痴にしかならないからさ手紙燃やすね

「遠大な理想」が張られた廊下から手をふる君がまぶしかったよ

真夜中にしっとり濡れたウサギ小屋一羽（うれしい）一羽（さみしい）

制服のボタンが全部落ちちゃって先生ごめん位置につけない